₹₹ 5

100 D 0

特 許 公 報

特許出屬公告 昭36-22511

公告 昭 36.11.24 出願 昭 34.5.26 特願 昭 34-16929

出願人 発明者 艮 友 正 治 字部市大字小串251 代理人 弁理士 早 川 密

代理人 弁理士 早 川 潔 (出願人において、権利譲渡または実施許諾の用意がある)

(全2頁)

可挠性電気范光灯

図面の略解

第1図は本発明可撓性電気発光灯の平面図、第 2図は一部を切欠せる拡大平面図、第3図は第2 図X-X線に沿える縦断面図、第4図乃至第6図 は条体の断面図である。

発明の詳細なる説明

本発明は通電性率芯の外周を絶縁可挠性の螢光物質で被覆し該螢光物質の外表面に通電性の薄導膜を形成しさらにその表面を透光可撓性の絶縁物質で被覆して構成せる帯条体あるいは紐状体を撤布状に縄成し前記導芯および薄導膜間に電圧を加え発光せしめることを特徴とする可撓性電気発光灯であつてその目的とする所は自由曲面を形成する発光灯を得るに在る。

図面に就き説明するに先ず第1図および第2図のごとき級布状のものを編成する前に第4図乃至第6図のごとき断面を有する条体を作りこれを各各編成して仕上げるもので各条体aは中心部に選む1を形成しその外間を絶縁可撓性の類光物質2で被覆しその表面にさらに通電性の薄導膜3を形成ししかる後外表面を透光性絶縁物質4で被覆して第4図のごとき円形断面第5図のごとき楕円断面あるいは第6図のごとき扁平帯状断面の条体を構成するもので各条体は前述の断面に拘泥せず如何様な断面でも差支えない。

次に条体の各構成材料の一例を示す。

(イ) 中心部の導芯

普通の場合極く小径の銅線を使用する.

(ロ) 絶縁可撓性の螢光物質

螢光物質としては硫化亜鉛マンガン銅螢光微粒子(ZnS,Mn,Cu)を使用しこれにテフロン樹脂(四弗化レジン)等の絶縁体(コンパウンド)を混和する。また硫化亜鉛マンガン銅の代りに硫化亜鉛、鉛、銅螢光体あるいは硫化亜鉛鋼アルミニウム螢光体を使用してもよくかくすることにより発光色を変化し得る。

(ハ) 通電性の薄導膜

普通の場合酸化錫(SnO2)より成る半導体

酸化物薄膜を使用する。

(ニ) 透光可撓性の絶縁物質

ポリプロピレン樹脂

しかしてこれ等条体の製造は在来公知の装置により連続的に製作し得るもので導芯1に螢光物質2を被殺するには公知の被授電線製造用の装置を使用しまた導電膜3は真空蒸消により行いさらに絶縁物質4は被覆電線製造用の連続押出成形装置で行えばよい。

また発光色の選定は前述のごとく類光物質を変化しても良くまた外表面のポリプロピレン樹脂を 適宜着色しても良いし、あるいは螢光物質と混和 するコンパウンドを適宜変色してもよい:

以上で各条体 a の製造を終了した後これを第1 図および第2図のごとく緞布状に編成するもので 福目の構造は使用目的に応じて任意変更する。第 2図は編成した緞布状のものに通電する状態を示すもので各導芯1はそれぞれ片力の再録分配を表 各 内 B間に電圧を加えれば螢光物質2は強いる。 間に鼠かれるので自ら発光するものである。 1 および薄薄膜3の露出は焼鏝を当てても削に配かでよって除去しまたナイフ等 でも並支えないもので海線A、Bを接続した後 は適当な絶縁材料で被覆すればよい。またり取後 は適当な絶縁材料で被覆すればよい。また種 B間に加えるべき電圧は発光の程度により種 としまするには電圧、周波 数を高めればよい。

次に本発明盤光灯の使用例に就き説べるに先ず第1の特徴は可撓性なる為自由曲面を形成することが可能であるからドーム状天井その他任意曲面を成す壁等に適当な接着剤(樹脂接着剤が可)で貼着して使用することが可能であるまた広告塔、発光模型、像等の宜伝用あるいはタラップ、手摺等の夜間標識等他方面に利用出来る。なお第2の特徴として繊布状に形成してある為鉄等で任意形状に截断し使用する場所または器物の形に自由に合致させることも可能である。

(2)

特公 昭 36-22511

要するに本発明は可挠性の螢光発光条体を構成しこれを編成して織布状としたものであるから自由曲面を形成することが可能で任意曲面の個所に貼消あるいは止避して使用し得るものであつて各条体は立体的に発光し発光効率高くしかも任意形状に截断し使用場所に適応させることが可能で可挠性電気発光灯として割期的なものである。

特許請求の範囲

通電性導芯の外周を絶縁可撓性の螢光物質で被 覆し該螢光物質の外表面に通電性の薄渇膜を形成 しさらにその表面を透光可撓性の絶縁物質で被覆 して構成せる帯条体あるいは紐条体を緻布状に編 成し前記導芯および薄導膜間に電圧を加え発光せ しめることを特徴とする可撓性電気発光灯。

第1図

